プロレタリア通信

NO24 共産主義者同盟中央書記局 1959.11.18

日本労働者階級の総力をあげて十一、二七のゼネストをかちとれ!!

首都の全労働者の国会への大政治デモを成功させよう!!

——安保斗争と労働者階級の任務——

十一、十一、二七は間近に迫った

安保改定の調印も十二日末が、一月はじめと決定され、再投票を勝ち抜くこと、スト权確立投票に敗れたところは、十一、二七の調印阻止のための決戦のゼネストは近づいている。

去年の十二月から交渉が開始され、K転法斗争の高まりの中で中断されながら、一旦の間つづき、その間の政治情勢の中心であった安保改定が、いよく調印の段階にある。

調印阻止の決定的一撃を今こそ加えねばならぬときだ。斗争の戦列は、まだ十分に組まれてはいない。

総評は十一、二七を全力あげて斗うということを十二、十を山にして斗う、というあいまいな表現をしている。

単産でスト体制を組んでいる労組は、全逓、全港湾、化学同盟、で他の基幹産業がゼネストに立上る体制は遅れている。

十一、二七まで残る期間のうちにスト体制を確立すること、スト权確立投票に敗れたところは、ころでは、二十一日二十五日の大デモなどの行動を斗い抜き、強力なスト体制をかため、他の労働者に呼びかけること、そして総評大会でゼネスト宣言を発しさせ、十一、二七ゼネストと大国会デモを勝ちとる。ことは、今労働者階級の緊急の課題だ。

われくは今日まで安保改定の真に階級的な把握と戦術を労働者がつかんで斗うために全力をあげて来た。

今、この期間における運動は、決定的ともいえる重要性をもっている。

現段階においても 安保斗争の階級斗争における基本的意義を明らかにし、その斗いの現状と問題点、十一、二七に向って

(2)

突進するために、そして安保改定をゼネストでほうむり去るために、二つのプロ通を送る。

三、十一、二七を岸、資本家政府に対する痛打とせよ!

——安保改定をめぐる階級関係と斗争の意義——

(1) 世界資本主義と日本資本家階級

安保改定を世界資本主義の現段階と、資本家階級の当面の政策のなかでみることからはじめよう。

解放をめざす労働者としてわれくは改良主義者や共産党のように、安保改定をたんに平和の問題や、民族の問題として把握するのではなく、階級の問題として、階級関係のなかでとらえることによってのみ、現在の課題を正しく把握することができる。

「円の裏側を円貨にとった」ことが、「社会主義の偉大な勝利である」とモスクワと世界の共産党が云う。

「われくはアメリカの実業家とも仲良くやって行けると思う」とアイクと握手したフルシチョフが云う。

しかし、まさにそのとき、合理化に抗して立上ったアメリカの鉄鋼労働者は、前代未聞の指導がないまゝに、しかし「実業家」に対する怒りをかけた斗いに立上り、史上最大のストライキを斗い抜き、しかもそれが、前代未聞の指導がないという全くその理由によって、解決の政治至高命令をつくりだしても勝ち抜くことができず、タフハートレー法の前に弾圧されようとしていた。

円の裏側にロケットが飛んでいる時間にもイギリスとドイツの労働階級は、社会民主主義の右側の前に重大な後退にさらされ、ヨーロッパの石炭労働者には首切りの札が吹きすさび、ベルギー領コンゴの人民の蜂起にたいして流血の弾圧がつづけられていた。

円ロケットの「偉大な勝利」の宣伝やフルシチョフ訪米は全くこうした資本主義の矛盾の強い現われや、労働者階級の危機に、眼をつぶらせる役割しか果たさない。

円ロケットの「偉大な勝利」の宣伝やフルシチョフ訪米は全くこうした資本主義の矛盾の強い現われや、労働者階級の危機に、眼をつぶらせる役割しか果たさない。

第二次帝国主義戦争后、ヨーロッパとアジヤに見のように高揚した革命運動を、アメリカ帝国主ぎの援助と、共産党の無能と日和見主義に助けられて、アジヤとヨーロッパの一角におしとゞめることに成功した各国の帝国主義は、その後、種々の発展段階と困難とを至近しながら、五七、八年の不況における労働者の斗争を乗り切った今、各々が各国内における労働者の搾取強化、蓄積の増大のために合理化の新しい努力を開始しながら、同時に、帝国主義としての市場の争奪の激しい競争の段階に入った。

今日形成されたEEC西独資本を中心に、仏、伊他の資本間で形成されたヨーロッパ共同市場とイギリス資本北政資本等の間で形成されたヨーロッパ自由貿易市場との競争、ポンド、マルク、フランの交換性の回復もその表現であり、ともに最近の東西首脳会談にたいするドゴールのイク、マクミランと何らの協議なしでの対フルシチョフ会談計画の発表と、東西首脳会談の延期要求はフランス帝国主ぎの国際外交における指導権確立のための必死の運動を表現している。

ドルの地位低下とアメリカ金流出を背景にして合理化されアメリカより安い労賃に依存した西欧資本主義の発展のなかで アメリカ帝国主義の圧倒的優位と、各国帝国主義にたいする指導的立場は、すでになくなり、各国帝国主義の激烈な競争戦が展開されている。

それは、各国労働者階級に対する新しい攻撃の強化を意味している。

五七、八年の不況を、過剰設備廃棄斗争の高揚の中から作り出された五八年のフランスの労働者階級の斗争を中心とした、ヨーロッパの政治「全面斗争の高揚は、フランス共産党の徹底的な民族主義と改良主義によるソフィスの労働者階級の後退——ドゴールの征服によって打ち破られた。そして前述の帝国主ぎ的政策の展開の中で一方合理化政策も、ベルギー、西独、イギリスの石炭労働者への首切りを失敗に終行された。斗争は極めて分裂的に斗われるかあるいは全敗

く裏切られてしまっている。そして合理化の中で蓄積された莫大な資本のおこぼれを与えて培養された労働貴族の強化と、フルシチョフの協調政策による労働者大衆への平和主義的、改良主義的の増大、共産党の無能化がイギリス労働党の選挙における完敗と一方の右傾の危機、西独社民党のアメリカ民主党なみの公然たるブハジョワ政党への変質が労働者大衆の反感なしに、すなわち労働者大衆を影響下にひきいれつゝ行われている。その意味で、ヨーロッパの労働者階級は資本家階級の大攻勢の前にあり、一方の階級支配の強化のなかにひきこまれる危機に立たされている。

ヨーロッパ帝国主義に押されはじめたアメリカ資本家階級の、アメリカ労働者階級にたいする一方の搾取強化と階級支配の強化、そしてそれにたいするアメリカ労働者の偏大な斗争力と、前衛党を持ち得なかった斗争の限界は、鉄鋼労働者の賃上要求、休憩時間短縮、能率向上反対の大ストライキに明確に示されている。

こうした世界資本主義の発展において、日本資本主義の例外でない。五八年から東南アジア、南米などを中心に海外に相対的に小規模とは云え、資本の輸出を開始した　鉄鋼の競争戦で、アメリカの鉄鋼業者に、「合理化のためにストを斗うことが必要だ」と感ぜしめたほどの激しい市場争奪戦を展開しており、蓄積を増大しているのであり、「安保の対象支配者」への要求を生み出しているのであり最新鋭戦斗機ロッキードF一〇四の国産化を生み出している矛盾的存在なのだ。

「これまで十五年間は労働者の時代であった。このあと十五年間は資本家の時代である」日経連の前田専務理事が、十月十六日日経連総会でこう云った。安保斗争と総労斗争の決戦が決戦が予想されているなかで云われたこの言葉は、現在の階級関係についての日本資本家階級の自信満々の把握を示している。

(2)　資本家階級との当面の決戦場 ＝ 安保斗争

五〇年の朝鮮戦争の中で、労働者の搾取による蓄積を基礎に、アメリカの援助をうけながら、重化学工業中心の高度に発達した資本主義を、他のどの帝国主義国にも類をみない苛酷な労働条件によるつくりあげた日本資本主義は、とくに五五、六年の好況のなかで、驚異的な発展をなしとげ、海外発展を開始した。

吉田、鳩山のあとを受けて登場した岸は、この帝国主義として強化せんとする日本資本家階級の政治における代弁者であり、だからこそ彼は、蓄積の増大したゝめに新に開始された資本家の合理化攻勢のなかで、更に五七年中頃から五八年中頃までつゞいた不況の中で、国鉄にたいする、そして日教組にたいする鳩山がなし得なかった弾圧を開始した。

五七、八年の不況において労働者の斗争が不敵に終り、社共の裏切りと無力化の中でこの時期の激しい斗争の指導者たちが「前衛党」の指導下に明確な階級的展望をもつ革命的な方針のもとにではなく、革命の思想とも理論とも縁のない「反主流派」としてしか指導し得ずに終ったことは、そして特に、この時期の最后の大斗争であった警職法斗争が裏切りのうちに冷却されてしまったあと、資本家階級は新しい攻撃に移った。

彼らは一方的では、合理化攻勢を口コツな首切りとレットパージの方向へすゝめた。そして彼等は、莫大な蓄積のオコボレを与えて一握りの転制派をつくりだし、これをして労働運動のヘゲモニーを彼等の手先に握らせようとする努力を全力をあげて開始した。その結果が、春斗における「休戦」攻勢の一定の成功であり、総評その他での右派の大攻勢であり、そしてその莫大の成果は西尾新党であった。

更に彼等は、政治的、軍事的にも帝国主義は露骨なロコツにましはじめた。

それは自衛隊の増強と改憲であり、かつての太平洋戦争の「聖

（4）の英雄」の源田実の空幕長任命であり ロッキードF一〇四の二百機の国産化であり、サイド、ウィンダーの持込みであり、これによる自衛隊の最新鋭軍隊としての完成の努力である

日本労働者階級は、現在たしかに危機に立っている

一方的では資本家階級の攻勢が合理化を首切りへと押進め ―しかも巧みに労働者の体制を崩しつつ― そして資本家政府が、軍事的帝国主義的姿をあらわにしており、しかももう一方では、労働運動内に押込まれた資本家の手先が、総評や民同をさえ転覆して、労働運動の全労化のために物凄い努力をつづけている。

ここで、この危機を打破る道はなにか？

それはたゞ、労働者が斗いに立上ること、その斗いの中で、斗う資本家の手先の姿をハッキリと労働者の前にバクロし、彼等を孤立させ労働者への影響力をたち切ることによってのみ可能だ！

そしてその最大の斗争は安保斗争だ。

一つは総労の兄弟の斗いだが、もう一つは全労働者がすでに斗いを呼びかけられている　岸資本家政府の侵略の準備、安保改定に強力な打撃を加え、これを粉砕する斗いを組織的に斗い抜くこと、ただこの事の中にだけしか、労働者が結集を切り開く道はない。

若しこの斗争を徹底的に斗い抜かなければ、資本家の手先＝西尾新党派は資本家の援助の下に大攻勢を開始するし、岸は警職法再提出をはじめとする新しい攻勢を、資本家は総労以外のところでも首切りの全面的攻勢を、彼等に有利な条件ではじめるだろう。

われ〳〵の課題は、今日総労斗争と安保斗争にかゝっており、就中、総労斗争が総労指導部の日和見で危機に立っている今、安保を斗い抜くことが極めて極めて重大な意義をもっている。

(3)、階級関係の中心 ＝ 安保改定

安保改定のなみは去年の十月から行われていた。

しかし警職法斗争で労働者階級が、資本家階級に一大打撃を与え、十一、五のあとでは、彼等は安保改定がふたゝび労働者を決起させることを怖れて交渉を中断し、二月から交渉を再開したが、それも参院選挙前で、本格的交渉にすゝみまとまりかけたのは六月だった。

丁度労働者の斗いも六、二五ではじめて一部分であったが実力行使に入り、安保改定が階級関係の中心に、ここときからはっきりと浮びあがった。

これが自民党内の問題としても最大の問題であり、そして政治の中心問題でもあった。八月の原水爆禁止大会、母親大会をめぐる労働者階級と資本家階級の争点も結局、安保改定を賛成かどうかにあったことは記憶に新しい。

ところでこのような情勢であったからこそ、六、二五以后総評が実力行使を敢行し、七、二五、八、六に六、二五以下の斗いしか組まれなかったことが極めて犯罪的な役割を果した。

六、二五で斗ったところはどこでも、一応転場に斗う勇気ができてきた情況だった。しかるに七、八月は調印がのばされたという理由でほとんど斗争がなかった。

九月から、総労三鉱連にたいする四五八〇名の首切発表后、階級斗争のもう一つの中心として日本労働者階級の最強部隊総労にたいする合理化攻勢との斗いがあらわれた。

この斗いのいかんが、日本労働者階級の帰趨にたゝる影響は極めて大きい。とは云え資本家階級の最大の政治課題としての安保改定の位置が低くなったわけではない。九月から十月にかけての河野、石橋などの、岸一派山の安保改定方針にたいする反対も、結局、資本家階級の意向を反映しての反対ではなく、小市民の人気とりによる彼等の自民党内の指導権争いにすぎず基本方針としての改定コースには何の影響も与えなかった。

十月二七日の自民党　会で改定の方針は河野、石橋等をまとめるためと、人民をより安心するためという目的で安保改定条項中の「期限」を十年以下に短かくするという「要望」をつけた上で満場一致決定された。

彼等に残されたことは讀賣新聞によると十二月二八日と云われた改定調印の日にむけて、いかに人民を欺瞞し、労働者の斗いを粉砕するかということだ。

(4) 敵の展望

今までのところ、安保改定が自民党内の最大問題であり、これについての意志を統一することが岸にとっても死決であったこと、また、労働者の斗争を刺激しないで、安保を調印にまで持っていくことが、彼等のプログラムであったことから、安保以外の政治攻勢はまだ明らかにされていない。

しかし、調印后の社会党大会には、安保の社会を最大の問題としながら、同時に、小選挙区制、憲法改悪、K転法再提出につながる反動攻勢が開始されるだろう。

安保改定を労働者階級が敵衣的に斗い抜くことなしに見送ることは、炭労に対する攻撃、西尾社会党と全労働運動を完全に資本家の支配下におしこむことをねらう策動と相まって、日本労働運動を危機に追いこむだろう。

資本家階級は五一年の講和のあと破防法を押し通し、日米共同宣言のあと国家公務員法を強行したように、日米安保条約を調整したあと、国内の階級関係を彼等に更に有利に変えるために攻撃をかけることはすでに彼等の計画中にある。

三、ゼネストをめざし突進せよ！
——安保斗争の当面の課題——

(1) 安保斗争の基本的とらえ方
非階級的民族主義を排せ！

安保斗争の今日までの至近が、特に六、二五以后の斗争の進展が示しているものは、安保斗争が、口先ではどう云われようと、現実に総評が斗争をサボローとしていることだ。と同時に、現在まで安保斗争が「職場に入らない」と云われる最大のものは、安保斗争の把握における非階級的な平和主義と民族主義がはびこっているからだ。「安保改定の本質は、日本のアメリカに対する従属を強めることにある」「安保が改定されゝば戦争にまきこまれる」という把握一点ばりで、だから「安保改定反対、独立、中立」ということになる。

こゝでは、安保改定における日本資本家階級のヘゲモニーが全く軽視されており、安保斗争の相手から「資本家」がいなくなっている。だから一向に意義がはっきりしないし、合理化等との関係も把握することができない。

安保改定の本質が、日本資本家階級の帝国主義的な強化のあらわれであり、侵略への道であり、国内の階級支配の強化の道であることを把握すること、このことをわれ〳〵は何回となく指摘して来たが、今日でもまだこれを強調することは依然として必要なことだ。

(2) ゼネストによる粉砕のために突進せよ！

日本労働者階級は、資本家政府の政治攻勢をゼネストで粉砕し去るために立上った、という本質を持っている。

共産党の動揺によって斗わなかったとは云え労働者が斗う決意に

(6)に燃えていた吉田政府打倒と民主政府樹立をめざした四七年の二、五八年十一、五二年の四、五月の四波にわたる破防法反対のゼネスト。

破防法ゼネストもK転法ゼネストも本当の日本資本主義の性能を完全にマヒさせるゼネストと云えるものでなかったし、指導部の動ヨーと裏切りによって、労働者の全力を出し切ったものとしても斗わなかった。

しかし、炭労の二四時間ストを先頭にした基幹産業のストライキは、資本家階級に衝撃を与え、中間层を労働者の側に引きつけるに十分な力をもっていたし、これが破防法を今日まで使用させず、そしてK転法をほゝむり去った力であることは疑いない。

安保改定阻止のゼネスト、今日これのみが資本家階級に打撃を与え、階級関係を労働者階級に有利な方向にかえる決定的な力だ。しかもわれ〳〵は、単に一日のスト自身を固守して斗うのではなく、至高斗争でもわれ〳〵は目標をかちとるまで斗いを高めていくと同様に、政治斗争においても目標を達するまで斗争を高めていく必要がある。

デモ、その他の斗争型態と結合したゼネスト、これを調印阻止のために、社会党改定阻止のために、全力をもって高めていくこと、破防法の四波のストライキの様に、徹底的にストで敵を追いつめていく事が必要なのだ。

われ〳〵のスローガン「安保改定をゼネストでほゝむれ！」は口先だけのものではない。

それは「安保改定をゼネストで必ずほゝむる」と云うことであり「ほゝむり去るまでストライキをつゞけ、高め拡げる！」ということなのだ。

(3) 全自労里の英雄的な斗いを思い起せ！

しかし現在、斗争がゼネストに来々とすゝむ状況にあることも明らかだ。

とくに全金、化学同盟などの単産や鉄道・合化でも最大級の工場組合ではない組合でスト权がとれているが、鉄道の八幡、国土、鋼管という最大の基幹工場、国鉄、私鉄、電通、造船という基幹部門がスト体制をもって斗う方針が完全に確認されていないことが大きな問題である。

こうしたところでのスト体制の確立が、全力あげて急がれねばならない。全労働者がこの大工場のストライキの決定的意義をつかみ、このストライキのために努力すること、大工場の意志的労働者が完全に意志統一して、スト体制確立のため斗うこと、この事が極めて必要だ。

と同時に、現在十一、二七にむけて斗えるだけの力をだして斗うこと、十一、二七のゼネストを現在斗える斗える最大の力を発揮しゼネストとせよ。

一九五一年、朝鮮でアメリカ帝国主義が反革命侵略戦争をつゞけている間に日本は単独講和によってアメリカを中心とする帝国主義軍事同盟にむすびつけられようとしたとき、日本の労働者は単独講和反対、全面講和要求の政治斗争に立上った。この全面講和要求の運動こそ、占領軍と資本家の肝入りでつくられた総評が、受け入れざるを得なかったものであり、それを通じて総評は、とにかく斗う言葉だけは云う組合に変っていかせたものだった。

しかしこの斗争は全労働者のストライキ斗争にならなかったし、またする労働もされなかった。この斗争をストライキをもって斗いぬいたのは共産党から「トロツキスト」とののしられ破壊活動をつけていた全学連だった。

五〇年にレッドパージをゼネストで粉砕した全学連は、五一年の講和斗争もストライキをもって斗い抜き、労働者に斗争を呼びかけた。全学連のストライキに対して主力部隊たる労働者階級でストに立上ったのは全自労里労連だけであった。

総評、産別が単独講和反対の方針は出したが、ストライキ斗争方針は出せないでいたとき、三万の労働者しか組織されていない全自は、五一年七月の中執で単独講和に対するストライキ斗争方針を決定し、一ヶ月の大衆討議のあと、九月一日に開かれた平和国民大会にストライキ斗争をもって参加した。

講和斗争のストはこの全自のストだけで終った。しかしこの偉大な政治斗争は先進的労働者の間に深い影響をとゞめ、翌年の破防法ストに受けつがれていった。

今日の安保改定ストは総評の方針のもとでという全自のストよりはるかに有利な条件で斗われる。全自の斗いを、そして破防法を、K転法ストの教訓を今こそ全労働者のものとせよ。

十一、二七を調印阻止の大政治ストとせよ！

更に大きなゼネストをつくりだすために十一、二七を斗い抜け！

(4) なにが必要か？

安保「独自」の徹底的宣伝と討議そして斗える組織だ！

スト体制をつくりだすためにそしてより強力に仕上げるために、なにが必要か？

現在スト体制をもって斗っているところのどこでも云える第一の教訓は、安保問題についての、独自の、徹底的な討議をした、ということだ。

鉄鋼労連は今年の春斗以来、右派の圧制と組んでの激烈な攻勢のなかで、執行部に大量の右派の進出があり、大工場でスト权をとったところは鶴鉄と富士鉄室蘭だけだ。これまで鶴鉄と共に進んでいた川鉄は、今度は完全に敗けた。何故鶴鉄と川鉄でこんな差が出て来たのか。右派の進出という問題が基本であることは勿論だ。と同時に、鶴鉄でも右派の大量進出を前にして、安保の教宣活動が徹底的に行われた、と云う事実が学ばねばならない。

北海道炭礦の青年労働者が「安保一色」というグループをつくってヤマをオルグしてまわった。この活動の教訓と云うものは何か。それは安保斗争には何か特別策があるわけでなく、彼等のねばり強い、くり返しての宣伝と討議の中で、安保改定は良くないものだ、と云う気持が労働者の中に作られ、斗う気持がつくられてくる、ということだ。

全金や関東化学の中小企業の労働者がストで立上っているのも、講演会やビラまきの何十回というくり返りがあっての上だ、ということを銘記せよ。

スト权投票でまけたところは　更に徹底的な宣伝討議をして再投票に持ち込め！そしてこの中で、斗いのための行動を組織化することが第二の必要なことだ。

「安保一色」というのは、いわば安保斗争をすゝめるために「自発的」に作られた青行隊だ。安保斗争のための、宣伝し討議する青行隊は全印総連東京地協内でもつくられている。

東京では地評の主催による「討論集会」が各地区で何度も持たれ斗う雰囲気と姿勢とがその中で結集の中につくられている。右化の東京ブロックでも活動家の討論集会、交流が行われている。

このような斗いの経験の交流、行動の組織化が現在の段階では活動家の斗争に大きな役割を果す。

こうして積極分子をつくりだすこと、そして積極分子を組合の中で最も力の発揮できる形で組織すること――青行隊――が必要であり、ストライキ斗争の高まりの中では、彼等が力を有効に納めるようなストライキ権をつくれ。地区労を形式的機関とせず工場代表者がゼネストの斗いについて討議する場とせよ。

こうした政治討議と、政治斗争の経験が、労働者に真に階級意識を吹きこみ、真の労働者――革命の担い手に作りかえるであり、そして労働組合の体質を、真に階級的な労働組合へと改造していくであろう。

(5) 部分的要求と安保斗争

「まず、転場の問題をとりあげて斗う中で、安保斗争を斗う「条件」がつくられる。いくら安保、安保と叫んでみても、転場の問題をとりあげなければ斗いにならない」「転場の問題をとりあげて斗うことが、安保を斗うことであり、安保だけをふりまわしても斗いにならない」

こう云うことをいって「安保が先か、転場の斗いが先か」という問題を持ちだして安保斗争の独自の宣伝をさける人々がいる。

現に総評は「炭労を支援することが安保を斗うことだ」などと云っている。これらは一見もっともらしく聞えるが、実は安保で「独自に」労働者が斗えるということが全く理解できず、日和見主義におちいっているものだ。

問題は「安保が先か、転場の要求が先か」などと云うところにはない。安保を斗うことが必要なのであり、安保で独自に政府に対する斗いを起すべきときなのだ。

転場要求、賃斗、合理化反対斗争も切実徹底的に斗い抜かねばならぬ。しかしそれは、直接に安保斗争ではないし、問題はこれらと安保斗争を、とも斗う事であり、この「結合」ということは、「どちらが先か」ということではなく、部分要求と安保との関連を労働者がつかんで共に斗うことなのだ。

安保改定は資本家階級の、強大な基盤を背景にした帝国主義的強化、侵略の欲望のあらわれである。その侵略の欲望は、労働者の搾取の上に更に一段の高度を拡大させようという欲望として出て来ている。この意味で彼等の利潤追求、基盤の増大という面で、徹底的合理化と安保はつながっている。

この問題を労働者がつかみ、ともに斗うことが、すなわち個別要求と安保を結合することなのだ。

結合に名をかりて安保斗争の独自の宣伝をサボることは、実は対政府の斗いを怖れることであり、さけることであり、日和見主義である。

十一、二七は至当要求と共にストが斗われるところが多い。

十一、二七ストを徹底的に斗え！これまでにスト权を確立せよ！

至当要求が解決されてもスト体制をとくな！

(6) 十一、二七　ストライキで国会に大デモをかけろ！

十一、二七はまだ臨時国会開会中だ。岸は十二月か一月かの浪米調印を公言している。

十一、二七のストライキで、全都の労働者が国会に大デモをかけ国会の機能をマヒさせ、岸自民党と資本家階級をふるえあがらすこと、そのことが、現在の敵に最大の打撃を与える道であり、同時に首都の労働者として、全国の労働者に対する前衛的な任務を果すことだ。

このストライキと結合し巨大デモの中から、更に多くの労働者をストライキに引きこむことができるだろう。

十一、二七の大デモで国会の機能をマヒさせろ！

首都の全労働者は国会へ！

岸を労働者の前に引きずり出せ！

ストライキで工場を空にして国会へ！

ストが出ないところで再投票もできないなら国会デモでスト体制をつくり出せ！

この成功のために全活動家は全力をあげよ！

(7) 前衛労働者は共産主義者同盟に結集せよ！

斗いの前進のためには、活動家の結集が必要だ。と同時に、それ以上に、前衛労働者の前衛党への結集が必要だ。

二、一ストのみじめな敗走が資本家階級のために武器をもっている米占領軍と対決することを全く怖れた共産党の骨のズイまでしみ

んだ日和見主義にあり、そしてその日和見主義が、全く労働者の前にバクロされていなかったことを思い出せ。
民転法斗争の裏切りが静水、岸会談によって行われ、共産党がこれを徹底的にバクロし斗いを呼びかけることを何もやらなかったことを思い出せ。
政治斗争は前衛党なしには斗えない。
そして今日、共産党は前衛党ではなくなっており、決定的瞬間に情勢を階級的に担う力を全く失っている。
彼等の安保斗争の方針は全くの民族主義であり、日和見主義である。彼等がゼネストのために、党としてなにをやったか。昨日まで安保斗争に岸打倒のスローガンをかゝげることに反対し、今日は「ゼネストも良いが、まずスト体制をどう作るかが問題だ」などと云って労働者にゼネストを呼びかけることを怖れているのが彼等だ。
だから、先進的労働者の任務は、彼等の本質を正しくつかみ、彼等とは別個の前衛組織に結集し、偽勢を正しくつかんで前衛として斗いぬくことにある。
共産主義同盟を、先進的労働者の中に強力に組織することこそ、安保斗争を、最も階級的に斗いぬく組織的保証だ。

(8) 斗争体制に入れ!

以上でわれわれの安保斗争の基本戦術の主要点をすべてのべた。
十一、二七を前にして、資本家階級の巨大な攻勢を前にして、更に一尺の力をふりしぼって、斗いに立ち上ろう!
十一、二七の成功のために全力をあげよ!
更に強力なゼネストを準備せよ!
大基幹産業のストライキを全労働者の力でつくりだせ!
鉄鋼、運輸その他基幹産業のストライキのために全労働者は斗え!
部分ストをゼネストに結びつけよ!
総評を裏切らすな!総評大会でゼネストを必ず決めさせろ!
裏切りをストライキで打破れ!
徹底的な大衆討議を重ねろ!安保の意義を全労働者
斗いのために青行隊を組織せよ!
共炭夕張の至験を全労働者のものとせよ!
斗いのために活動家会議を、地区討論集集会を、そして地区のストライキ会議を開け!
地区労を斗いの組織とせよ!
すべての前衛労働者は、共産主義者同盟に結集せよ!
日和見主義共産党の本質を正しくつかみ、真の世界革命のために斗え!
安保斗争を革命的労働者を生みだすルツボたらしめよ!